

第3回 静岡市清水地区LRT導入検討協議会

- 1 日 時 平成25年5月15日（水） 14時00分～16時00分
- 2 場 所 清水庁舎 3階 313会議室
- 3 出席者 (委員) 川口会長、遠藤委員、小川委員、水島委員
松本委員、花井委員、笠井委員、大井委員、齋藤委員、
新聞委員（代理：小坂）、仲田委員（代理：伊藤）、
勝山委員
(関係者) 松本委員、古屋委員、鈴木委員（代理：宮原）
(欠席) 村松委員
(事務局) 小林交通政策担当部長、大滝参与兼交通政策課長、
吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師

6 議 題 LRT導入に向けた施策の検討

7 会議内容

- (1) 第2回協議会の指摘事項と対応（案）
- (2) 静岡型コンパクトシティの実現に向けた公共交通の整備及びまちづくりの推進
- (3) 静岡市の目指す公共交通ネットワーク
- (4) 各都心における導入の目的
- (5) LRTシステムの選定理由について
- (6) 各ルートの概要について
- (7) 目指すまちづくり及び課題解決に向けた施策（案）
- (8) 市民・経済界・交通事業者・市が一体となった連携・協力
- (9) ルートの施策イメージ

○意見交換

～市民の理解～

- ・市民の理解を得るためには、LRT 検討に対する情報開示やPRをすべき。
- ・LRT の整備に相応の巨額を要し、かつその運営も赤字では事業の必要性が説明できない。整備効果すなわち社会便益を定量的に示すことはできないか。

～ルート～

- ・JR 清水駅の接続は西口であるべき。
- ・清水橋通過の件は「通せない」のではなく「どうしたら通せるのか」として検討すべき。

～需要予測～

- ・現計画の沿線には人口が少ないので、利用者の確保には他地域からの入れ込みを期待することになる。このように、誰が何の目的で利用するのかを見据えないと、ルートも需要喚起も議論できない。従って例えば利用者やその移動目的の想定によって、需要予測値も複数のパターンがあるべき。

～整備及び運営スキーム～

- ・資料にある「交通事業者」とは何か。(現行の鉄道・バス事業者 or LRT 運営者?)
- ・LRT 事業者の形態(上下分離, 純民営, 第三セクター等)は具体的に想定しているのか。
- ・LRT 整備には国等の補助が入るので、静岡市の実負担額がどの位になるのかを知りたい。運営についても同様である。

～日の出地区の開発～

- ・日の出地区の商業開発や観光化を前提としているが、その姿や見通しが示されないなかでは、LRT の目的や意義を議論するに至らない。

～道路交通への影響～

- ・LRT 導入後の既存道路交通に対する影響度の検討が必要である。